

96	港湾局	東京港の港湾計画に基づく港湾施設の整備
事業概要		東京港は、世界の基幹航路の船舶が直接寄港する世界でも屈指のコンテナふ頭を備えた国際貿易港であり、都民を始めとする首都圏 4,000 万人の生活と経済活動に必要な物資を、国内外から迅速にかつ安定的に供給する一大物流拠点として、重要な役割を果たしている。 一方、東京港は物流機能だけでなく、東京にとって貴重な空間である埋立地を利用して、東京の都市構造の再編や都民の活力とうるおいのある生活に寄与するために、産業基盤としての機能、生活基盤としての機能及びレクリエーションの場としての機能などを果たしている。 国際貿易及び国内海上輸送の中核的な港湾として、東京港の物流機能強化を図るため、港湾施設の整備は、令和 10 年代後半を目標とした東京港第 9 次改訂港湾計画に基づき着実に推進していく。
これまでの経過		・ 大正 14 年に日の出棧橋、昭和 7 年に芝浦岸壁、同 9 年に竹芝棧橋完成 ・ 昭和 16 年に東京港開港 ・ 昭和 31 年に「東京港港湾計画」策定 ・ 昭和 42 年に品川ふ頭に外貿コンテナふ頭完成 ・ 昭和 46 年から 50 年にかけて大井コンテナふ頭完成 ・ 昭和 49 年から 52 年にかけて 10 号地その 2 フェリーふ頭完成 ・ 昭和 60 年に青海コンテナふ頭の一部分が完成 ・ 平成 5 年にレインボーブリッジ完成 ・ 平成 14 年に東京臨海トンネル完成 ・ 平成 24 年に東京ゲートブリッジを含む東京港臨海道路完成 ・ 平成 29 年に中央防波堤外側コンテナふ頭の一部分が完成 ・ 令和 2 年に臨港道路南北線及び東京国際クルーズふ頭完成 ・ 令和 5 年に「東京港第 9 次改訂港湾計画」策定
現在の進行状況		○ 第 9 次改訂港湾計画の策定 ・ 東京港では、近年のアジア貨物の更なる増加や船舶の大型化の進展、少子高齢化等による労働力不足や、A I ・ I o T 等の情報通信技術の進化など、東京港を取り巻く環境は大きく変化している。一方、首都直下地震の発生や激甚化・頻発化している高潮・暴風等に対して、災害時時にも物流機能を維持できる強靱な港づくりや、脱炭素社会の実現、クルーズを核とした観光拠点の形成など、様々な取組が求められている。 ・ これらの環境の変化に対応するため、令和 4 年 1 月に東京都港湾審議会より「東京港第 9 次改訂港湾計画に向けた長期構想」の答申を受け、令和 5 年に第 9 次改訂港湾計画を策定した。 ＜主なふ頭計画＞ [新規計画] ・ 新海面処分場コンテナふ頭（新設）2 バース ・ 中央防波堤内側内貿ユニットロードふ頭（新設）2 バース ・ 中央防波堤内側内貿ユニットロードふ頭（岸壁延伸）2 バース

現在の進行状況	[既定計画] ・大井コンテナふ頭（岸壁増深・拡張）8バース ・青海コンテナふ頭（岸壁増深）2バース ・品川コンテナふ頭（岸壁増深・拡張）3バース ・新海面処分場コンテナふ頭（新設）1バース ・10号地その2ユニットロード内貿ふ頭（岸壁増深・拡張）6バース ・東京国際クルーズふ頭（新設）1バース ○ ふ頭機能の整備 ・中央防波堤外側コンテナふ頭（3バース中2バース供用） ・品川内貿ふ頭（3バース中2バース供用） ○ 防災機能の強化 ・海岸保全施設の耐震化等 防潮堤（東雲二丁目、北前堀）、内部護岸（朝潮運河、辰巳運河）、水門（新砂） ○ 新海面処分場の整備 ・護岸建設 Dブロック護岸 ・延命化対策 Dブロック深掘
今後の見通し	第9次改訂港湾計画に基づく港湾施設の整備等を着実に推進し、東京港をユーザーに選ばれ国際競争力が高く使いやすい港に進化させていく。
問合せ先	港湾局 港湾整備部 建設調整課 港湾局 港湾整備部 計画課
電話	03-5320-5603 03-5320-5612